

令和8年度第1回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 令和8年5月21日(木)
2. 開催場所 北秋田市民ふれあいプラザ 研修室A・B
3. 開会及び閉会 開会：午後1時25分 閉会：午後3時10分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光
<北秋田市教育委員会>
教育長 佐藤 昭洋
職務代理者 佐藤 英樹
委員 佐藤 正俊
委員 蒔苗 隆
委員 藤本 基子
5. 欠席委員 なし
6. 出席職員 <教育委員会事務局>
教育次長：福嶋 統 教育総務係長：櫻田 正明
教育総務課長：池田 恒平 学校給食係長：松岡 繁広
学校教育課長：小林 陽介 学校教育係長：金 幸子
生涯学習課長：片岡 喜輝 生涯学習係長：櫻井 條史
学校教育課推進監：高橋 裕樹 教育総務係(書記)：藤本 来夢
7. 案件 (1) 北秋田市教育大綱の策定について
(2) 令和8年度 主な教育施策について
(3) 北秋田市立小・中学校及び義務教育学校における教職員の多忙化防止計画の推進について
(4) 北秋田市立学校部活動地域展開の推進について
(5) 意見交換

8. 会議録

(午後1時25分 開会)

福嶋教育次長	ただいまから、令和8年度第1回北秋田市総合教育会議を開会いたします。 初めに、津谷市長より挨拶をお願いいたします。
--------	--

津谷市長	<津谷市長あいさつ>
福嶋教育次長	続きまして、佐藤教育長より挨拶をお願いいたします。
佐藤教育長	<佐藤教育長あいさつ>
福嶋教育次長	ありがとうございました。 それでは、案件に入らせていただきます。「北秋田市総合教育会議運営要綱」により、議長は市長が行うこととなっておりますので、津谷市長に案件の進行をお願いいたします。津谷市長、よろしくお願いいたします。
津谷市長	要綱に基づいて、議長を務めさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。 初めに、案件（１）北秋田市教育大綱の策定について、教育総務課長より説明をお願いします。
池田教育総務課長	<教育総務課長による資料説明>
津谷市長	ただいまの説明について、委員の皆様からご意見、ご質問等ございませんか。
藤本委員	昨年度、中学校のPTA会長を初めて務めさせていただいた中で、学校運営協議会に携わらせていただいて、地元の方々はとても地域の学校を大切に思ってくさっているということを実感しました。そういった地域の方々、お子さんやお孫さんが地元の学校にいない方々にも、どんどん関わっていただくということが、そういった目指す将来像の「関わる」ということにつながってくるかと思っておりますので、そういった学校と地域の関わりをこれからも大切にしていきたいと思っております。
小林学校教育課長	地域とともにある学校というのが、今どこの学校でも大事にしていることであります。それを徹底してやっていきたいと思っております。
津谷市長	他にございませんか。 なければ、原案のとおり決定してもよろしいでしょうか。
委員全員	はい。
津谷市長	皆様の同意をいただきましたので、大綱については原案のとおり決定いたします。 次に、案件（２）令和８年度主な教育施策について、各担当課長から説明をお願い

津谷市長	いします。教育総務課長、学校教育課長、生涯学習課長の順にお願いします。
池田教育総務課長 小林学校教育課長 片岡生涯学習課長	<教育総務課長、学校教育課長、生涯学習課長による資料説明>
津谷市長	ただいまの説明について、何かご意見、ご質問等ございませんか。
藤本委員	教育総務課にお願いします。学校給食について、他県では質素なおかずになったり業者が破綻するなど問題がありますが、北秋田市では限られた予算の中で北秋田市産の農産物や加工品をふんだんに取り入れ、安心安全なだけでなく、子どもたちのふるさと愛にもつながっていると思います。地元の業者や生産者との良好な関係を維持していただき、引き続きよろしく願いいたします。
池田教育総務課長	ありがとうございます。物価高の関係で食材料費の高騰が危惧されますが、スタッフ一同やりくりをして頑張っております。地場産品については、森永牛乳が撤退しましたが、少しでも多く地元のものを取り入れるよう、地元の生産者との話し合いの場を設けたいと思っています。また、地元のものを使った献立をホームページ等でPRしていますが、さらに多くの方に知っていただけるよう取り組みを進めたいと思っています。
佐藤教育長	加えて、今年度も市民を対象に試食会を計画しておりますので、楽しみにしていただきたいです。
池田教育総務課長	今年度は3回予定しております。
津谷市長	献立を見ると、栄養士さんや給食の方々の工夫は素晴らしく、東京にいる私の娘の子どもが北秋田市の献立表を見て、うらやましいと言っています。給食を目当てに移住してくれればありがたいと思うぐらいです。頑張っている方によりしくお伝えください。 ほかにご意見はございますか。
蒔苗委員	学校教育課にお伺いします。部活動の地域移行について、学校の体育の授業と部活動の関係、つながりはどうなるのか、また地域の外部指導員の身分はどうなるのか、その2点を伺います。
小林学校教育課長	体育の授業と部活動は別物です。体育は学習指導要領に基づいて授業の中で行うもの、部活動は生徒の選択によるものですので、質が異なります。身分については、

小林学校教育課長	市の会計年度任用職員で対応していただいております、謝礼をお支払いしています。
佐藤正俊委員	学校教育課へのお願いです。昨年の学校訪問で、子どもたちのタブレット活用に感心しました。1年生からしっかり使われていることに驚きました。73%の活用率とのことですが、できるだけ100%に近づけてほしいと思います。また、電子黒板はあと何校ですか。
小林学校教育課長	3校です。今年の夏までに。合川中、森吉中、阿仁学園に設置予定です。
佐藤正俊委員	電子黒板の活用も素晴らしく、タブレットとのつながりがスムーズで、学習上、大変いい機能を持って、子どもたちの学力向上も期待できると感じました。引き続き、各学校に活用を促していただきたいと思います。 もう1点、生涯学習課へのお願いです。コミセンについてですが、大変古くなっており、トイレが和式で、できれば洋式に改築してほしいというのが、市民の願いでありました。現在の場所から遠くなるという方もいましたが、なるべく早く新しいコミセンができるよう望みます。
津谷市長	ありがとうございます。各課長から回答をお願いします。
小林学校教育課長	タブレットに関しては、実際100%使っている学校もあります。昨年度、阿仁学園は100%でした。アンケートの選択肢が「毎日使っている」「週に数回使っている」「週に1回程度」とあり、「毎日使っている」が73%ということで、子どもたちは朝から帰るまでの間に、いろいろな形で活用しております。体育祭など全く使わない日もありますが、実質使える日はほとんどの学校で使われています。量と質の両方を大事にしながら活用していきたいと思います。また、パソコンやタブレットの使用環境は、ここ数年で大きく改善されました。電子黒板の導入に合わせて、使用方法を周知し、授業のねらいと照らしながら有効に活用していきたいと思っています。
佐藤正俊委員	4月の教育委員会から（職員がタブレットになり）風景が変わりましたね。
池田教育総務課長	職員一人一人にタブレットを配置しており、事務局はペーパーレスを推進しています。資料は基本的に印刷せず、データで対応しておりますので、御理解いただければと思います。
佐藤正俊委員	とても進んでいるので、ついていくのが大変です。
小林学校教育課長	学校の職員会議もこのようになり、印刷時間やコスト、会の進行時間が削減され

小林学校教育課長	ています。タブレットやパソコンを持参して行うのが主流になってきています。
片岡生涯学習課長	コミュニティセンターの主な要望は、老朽化への対応、バリアフリー、トイレ、駐車場、階段の問題です。令和10年秋の供用開始に向けて計画を遂行していきます。周辺の皆様への周知、説明を丁寧にししながら、計画どおり進めていく所存ですので、ご理解をお願いいたします。
佐藤教育長	19日の「ニュースこまち」で、合川小学校の慰霊碑清掃のニュースが放映されました。そこに授業の様子も映っており、去年導入した電子黒板を使って先生が授業していたので、実際に使われていることを実感しました。
佐藤英樹委員	<p>2点、エールを送りたいと思います。</p> <p>1点目は教育総務課へです。昨日、建設関係の業者と会議をしましたが、物価高騰と中東情勢の影響で、日本に建設資材が入りにくくなっているとのこと。スケジュールどおり計画が進まない懸念があります。鷹中の体育館改築工事や小中学校の設備整備事業を控えていますので、柔軟に対応していただき、進めていただきたいと思います。</p> <p>2点目は学校教育課へです。「架け橋期における教育推進体制の強化」について、春に子ども園に向かれた小学校の校長先生が、園の活動ぶりを見て勉強できたとのこと。保育園職員も鷹小に向いて、教育活動に参加し、子どもたちの成長ぶりを見ています。このプログラムは非常によい取組ですので、年間を通してこのような場面をつくっていただき、子どもたちが大きく成長できるよう力添えをお願いしたいと思います。</p>
池田教育総務課長	物価高騰については業者からも聞く機会があり、懸念しています。現在入札を控えており、無事契約までこぎ着けたいと思っています。今回の工事は大型で3か年に及びます。計画的に発注できる時間があると考えています。また、物価高騰については、制度上一定の条件を満たせば業者を助ける制度もありますので、契約業者との連携を密にししながら進めていきたいと思っています。
小林学校教育課長	幼保と小の連携は非常に大切です。幼稚園や保育園でも質の高い教育をしていますが、小学校の先生がそれを知らないと、せっかく育った子どもが1年生だからということでゼロから始まってしまいます。小学校の先生が出向いて活動を見たり、保育園の先生が来て小学校の活動を見たりすることで、自分たちの関わりを見直す機会になります。この行き来はここ数年進んできていますので、このプログラムを基にしながら、さらに深めていきたいと考えています。
佐藤英樹委員	よろしくお願ひします。

藤本委員	<p>学校教育課と生涯学習課へ、それぞれ1点ずつお願いします。</p> <p>学校教育課へ、スクールロイヤーの導入予定について教えていただきたいと思います。何もないことが望ましいですが、問題があったときに透明性が高い説明責任と初期対応が重要です。スクールロイヤーの同席により、管理職の安心にもつながり、多忙化防止にも役立つと思います。秋田市では先駆けて導入され、需要があるようですので、導入予定について教えていただきたいと思います。</p> <p>生涯学習課へ、先日2回目の本の交換会に行きました。1回目と違い、ホワイトボードに感想やコメントが残せるようになっていて、よかったです。全集や鷹巣農林高校の生徒会誌など、本屋では手に入らない本がたくさんあり驚きました。今回の施策の中に図書館事業のことはなかったのですが、ぜひ今後入れていただくといいのかなと思いました。</p>
小林学校教育課長	<p>スクールロイヤーについては、現在まだ具体的な話は出ていません。今年度、県がスクールロイヤーを導入しました。先日、県の教育長が来庁し、必要があれば県で雇っているロイヤーを派遣することも可能だという情報を頂きましたので、必要に応じてそのような対応をとりながら進めたいと思います。</p>
片岡生涯学習課長	<p>本の交換会について、毎朝、どのような本が増えているか、なくなっているかを眺めていました。メッセージボードを見ると、好評を頂いています。本があそこにあることで、図書館とは違った雰囲気の中で、コムコムの来場者が足を運んで眺めたり、親子で微笑ましい光景も見られます。昨日で終わりましたが、早くも次回の企画を担当に指示しているところです。総合教育会議の中に図書館という具体的な項目はありませんが、今後も推進していきたいと考えています。</p>
津谷市長	<p>教育センター事業について、毎年1月に先生方の発表を聞いていますが、終わった後の感想が形骸化しているように感じます。実践的な発表会にしたいという課長の話があり、これはいいことだと思いますので、その辺を工夫していただきたいと思います。</p>
小林学校教育課長	<p>昨年度は3組と発表者が少なかったため、大きい会場での発表になり、感想を言いにくくなっていました。今年度は7組から9組の出場を目指し、会場を4つに分け、1つの部屋に20人程度で、ざっくばらんに感想が言える環境をつくりたいと思っています。聞く側も自分事として聞くようになると思います。校長先生方や全職員に先日の所員総会でお話ししましたので、今年度の発表会はそのような光景を見ていただけるよう頑張りたいと思います。</p>
津谷市長	<p>よろしくお願いします。</p>

津谷市長	<p>それでは、事務局各課においては、本日出された様々なご意見、ご提言を考慮しつつ、次年度にもつながる継続性を重視した施策を進めていただきたいと思います。</p> <p>次に（３）北秋田市立小・中学校及び義務教育学校における教職員の多忙化防止計画の推進について、学校教育課長から説明をお願いします。</p>
小林学校教育課長	<学校教育課長による資料説明>
津谷市長	ただいまの説明について、何かご意見、ご質問等ございませんか。
佐藤正俊委員	<p>自分の若い頃を思い出しながら聞いていました。子どもたちにとって学校が居場所であるように、先生たちにとって職員室が居場所です。部活動終了後、先輩から話を聞いたり、悩みを相談したりする場でした。今の働き方改革の説明を聞くと、結構厳しいのではと感じました。学校がうまくいくのか心配です。お互いに話し合うと遅くまでかかることもありました。でも、それが私たちが学校で育ってきた力です。毎日学校に行くのが楽しく、部活動も先生方との会話も楽しい時間でした。このままでは別の方向に進んでいるような気がしてなりません。</p>
小林学校教育課長	<p>やらなければならないことがあるのに、帰れ帰れと言われて帰るのは逆にストレスです。結局家でやることになります。日中の勤務時間に隙間時間がないと、話し合いや情報交換ができません。特に学校では大事です。昨年度まで阿仁学園にいましたが、先生方に空き時間をたくさん作ることを意識しました。特に小学校の先生は全教科やるので、黙っていると１時間目から６時間目まで入ってしまい、隙間がなくなります。１時間から２時間の空き時間があれば、ちょっと座って相談できます。部活についても、１人で担当すると隙間がなくなりますが、複数の先生や外部の方が入ることで隙間ができます。隙間をつくり、互いにコミュニケーションを取りながら進めないと、物理的な量を変えずに数字だけあてはめてもうまくいきません。お互いのコミュニケーションと向き合える時間を大事にしながら、みんなで考えていきたいと思います。</p>
佐藤正俊委員	<p>昨年、阿仁学園の先生に「学校はどうか」と聞いたら、とても楽しいとのことでした。そういう場があるからこそ、学校が楽しいのです。ぎっちり固まってしまうと、そうはいきません。校長先生の学校経営が大事です。若手の相談に乗ったり、困った顔をしている先生に声をかけたりする管理職の教育も、教育委員会の仕事ではないでしょうか。そこを柔らかく見ていただきたいと思います。</p>
藤本委員	<p>保護者対応も効率化できると思います。息子がいた学校は、欠席など電話連絡を求めていました。もちろん直接先生とお話したいときもありますが、欠席や遅刻</p>

藤本委員	<p>の連絡は、親としても夜中に熱が出たときなど、先生の出勤時間を狙って電話するのが難しくなることもありますので、全市的にアプリでの対応を統一していただければと思います。</p>
小林学校教育課長	<p>現在、アプリは全校使えますが、アプリでいいという学校と、電話もお願いするという学校があります。学校の規模も異なり、理由もあると思いますが、校長会でどの方法が望ましいか話し合ってみたいと思います。</p>
藤本委員	<p>お願いします。</p>
佐藤英樹委員	<p>先生方の多忙化は、文科省、県教委、市教委が考え方を変えないと解消できないと思います。現場の先生は子どもたちと接する時間を増やし、報告や調査をICT化し、各学校で入力したソフトが県教委や文科省で見えるようなシステムにするなどしていかねばならないと思います。</p>
小林学校教育課長	<p>私自身、学校現場にいた時も調査は本当に多く、勘弁してほしいと思いながらやっていたのですが、今は発出する側なので非常に苦しいです。必要なものを判断し、調整ができる立場にありますので、何でもかんでも依頼するのではなく、パソコンに向かう時間より子どもと向かう時間が確保できるような支援をしたいと思っています。</p>
佐藤教育長	<p>以前県教委に勤めた頃、県指定の研究をやめようと言った先輩がいて、やめたんです。先生たちが研究するなら、県から指定されたからではなく、自分たちで研究したいからやろうという方向に変えました。こういった取組もすごく大事だと思います。最近は国が法律を変え、何かやるとなると、必ず成果や調査を求めます。必要性は理解していますが、読み込むだけでも時間がかかります。機会あるたびに訴えていきたいと思っていますが、結局、人の配置や加配をしてくれる施策をやってもらっても、それに合わせて調査も来るという流れになっているような気がしています。</p>
蒔苗委員	<p>勤務時間について、時間外在校時間を基準として測定するしかないと思いますが、時間の過ごし方は人によって異なります。それを評価する人が途中にいるとか、例えば病院では各科の部長が何をやって、時間になったことを認定するようにしています。学校でもできるのでしょうか。また、効率も人によって異なるので、一律に同じ時間で比べていいのでしょうか。</p>
小林学校教育課長	<p>学校は月によって仕事量が全く異なります。4月は30時間にするのは無理です。ただ、だんだん落ち着いて20時間や10時間になる月もあります。1年間必ずこの</p>

小林学校教育課長	<p>時間という数字であてはめるのではなく、先生方の様子やストレスチェック、表情や健康状態を管理職が把握し、心配なことはないか、生き生きしているかを確認することが大事だと考えております。追加資料のグラフを見ると、令和7年度の時間外在校時間は小学校32時間、中学校44時間で、中学校の先生の残業時間が多い原因は部活動です。さらに下のグラフを見ると、平均30時間ではなく、皆さん30時間以内に帰れる学校づくりを考えたとき、中学校のグラフで45時間以上の方が半分でした。今年度は皆45時間から少しずつ減らしていこうと話しています。中学校の先生は活動に拘束される時間が大きいので、地域展開の推進と関連づけながら、先生方の生活に隙間があり笑が増える学校づくりを大事にしていきたいと思っています。</p>
津谷市長	<p>先ほど来、お話を伺いながら、計画を前に進めていかないと、なかなか時間外が減らないのではないかと思います。委員の方々からもいろいろなお話がありましたので、いただいたご意見を十分に取り入れながら、計画を進めていただきたいと思えます。</p> <p>続いて、(4)北秋田市学校部活動地域展開の推進について、学校教育課長から説明をお願いします。</p>
小林学校教育課長	<p><学校教育課長による資料説明></p>
津谷市長	<p>ただいまの説明について、何かご意見、ご質問等ございませんか。</p>
藤本委員	<p>2点あります。やりたいことが大館のクラブチームにあったとしても、例えば兄弟が小さくて、親の送迎ができなくて、中学校の別の部活に入ったとか、鷹巣と鷹巣以外の地域差がなく、やりたいことが取り組めるようになることを望みます。</p> <p>もう一つは、スポ少部活動では、親の会の中から、事務局や会計係などをやっていたが、地域展開になった場合の活動費管理や事務について、保護者以外や市内企業の方に支援をお願いすることもお考えでしょうか。</p>
小林学校教育課長	<p>部活動の地域展開における大きな課題の一つは、平日の送迎です。今後は活動回数よりも質を重視する方向になると考えられ、土日の活動については保護者に送迎をお願いしながら、平日は地域ごとに基礎練習を行い、土日に集まって活動するなど、各種目で工夫を検討していく必要があります。また、練習場所を持ち回りにするなど、一部の生徒だけに負担が偏らない運営方法も考えられます。こうした様々な事例を参考にしながら、それぞれのクラブに合った形を模索していかなければならないと考えております。企業等の支援については、既に取組が進んでいる例もあります。例えば野球では、生徒数の減少により単独でのチーム編成が難しくなっていることから、来年度以降は鷹巣中学校野球部を母体とした「K I T A A K I T A</p>

小林学校教育課長	<p>TAKANOSU BASEBALL CLUB (キタアキタ・タカノス・ベースボール・クラブ)」に一本化し、地域の事業者等の協力を得ながら活動していく予定です。このように、送迎や費用負担といった課題はありますが、各競技において様々な工夫が進められておりますので、他の種目でも参考となる取組を共有しながら進めていきたいと考えております。</p>
佐藤正俊委員	<p>部活動は、単に技能の向上や勝敗だけを目的とするものではなかったと感じています。私自身の経験を振り返っても、部活動を通じた生活指導の役割は非常に大きかったと思います。例えば、早寝早起きができているか、しっかり食事をとっているかといったことも含めて指導してきました。そのため、部活動が地域へ移行した際に、こうした生活指導の部分が今後どのように担われていくのか、また、これまで学校で行ってきたような指導が継続できるのかという点については、少し心配しているところです。</p>
小林学校教育課長	<p>私自身、学級担任をしながら部活動の指導を行ってきましたが、部活動経営がうまくいくと学級経営もうまくいくという実感がありました。部活動を通して、礼儀や規律、感謝の心などを身に付けた子どもたちが学級に戻ることで、学級全体が落ち着き、よりよい環境づくりにつながっていたと思います。その意味では、学校と部活動が切り離されることによって、これまで部活動を通じて育まれてきた人としての成長や生活指導の部分を、今後どのように担っていくのが大きな課題になると考えています。技術の向上だけではなく、人間形成という部活動の役割は非常に重要ですので、これまで部活動が果たしてきた役割を、今後どのような活動や教育の場で補っていくのかという視点で、しっかり議論していく必要があると思います。</p>
佐藤英樹委員	<p>北秋田市のロードマップは、何回か勉強させていただいていますが、他の地域と比べてかなり進んでいるので、頑張ってくれていると思います。ただ、競技団体がある種目はいいですが、この地域にない種目を続けたい子ども、経済的に裕福でない家庭の子どものフォローも必要だと思います。選手の輸送、費用の問題もありますが、昨今の新潟の北越高校テニス部の問題を見ると、慎重に進めないといけない部分もありますので、そのあたりも含めて計画を進めていただきたいと思います。</p>
小林学校教育課長	<p>競技団体や協会のない種目については、個別に対応していくことになると考えております。競技人口は少なくとも魅力のあるスポーツはありますので、そうした種目については、個別にお話を伺いながら取り組んでいます。また、輸送については、現在、小学校ではスポーツ少年団活動が定着しており、基本的には保護者が送迎を担う形となっています。中学校の地域クラブ活動においても、基本的にはその形を参考にしていくことになると考えております。なお、高校生になると、マイクロバ</p>

小林学校教育課長	<p>ス等を活用して遠征するケースもありますが、小・中学生については、現在のスポーツ少年団における送迎の在り方を一つの参考としながら進めていきたいと考えております。</p>
蒔苗委員	<p>地域に移行するとき、主体となるのがどちらになるのか問題になると思います。若い人を育成しようという人と、勝利だけ目指す人、価値観が違う人がいて、どちらが主導か、争いごとが起こるのではないかと心配されますけれども、いかがでしょうか。</p>
小林学校教育課長	<p>勝利至上主義に走る方とそうでない方の軋轢は、クラブのねらいをみんなで共有してから始めないと、意見が分かれます。タカノス・ベースボール・クラブはチームの方針をきちっと出しています。ねらいは、勝ち負けだけでなく、上位の子だけでなく活躍の場を与えます、という方針を出して募集をかけています。その方針、ねらいを示すことが大事です。それに賛同してくれる人はいらしてください、という形になります。</p>
津谷市長	<p>他にございませんか。</p> <p>なければ、皆さんからいただいたご意見を十分に参考にしながら、地域移行を進めていただきたいと思います。</p> <p>続いて、(5)意見交換に入ります。</p> <p>特に、テーマを限定せずに「北秋田市の教育について」、日頃感じていること、課題等、皆さんからご意見、ご提言をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>何かございますか。</p>
佐藤正俊委員	<p>教育長が挨拶で紹介された新聞記事（※2026年5月5日秋田魁新報 子どもの「幸福」秋田1位）について、私も大変うれしく思い、記事を切り抜いて保管しました。特に、子どもたちの幸福感の理由として「社会貢献」が上位に挙げられていたことに注目しており、先ほどの説明でその割合が高かったことに、改めて納得したところです。本市では、ボランティア活動やふるさと教育に継続して取り組んでおり、地域を大切にする子どもたちが育っていると感じています。先日参加した阿仁学園の運動会でも、地域と学校が互いを大切にしている様子が随所に見られ、子どもたちの地域への愛着や誇りにつながっていることを強く感じました。当日は雨天のため体育館での開催となりましたが、多くの地域住民が集まり、学校行事を楽しみにしている様子が印象的でした。こうした学校・家庭・地域の温かいつながりが、子どもたちの幸福感や健やかな成長につながっているのではないかと思います。今後も、こうした取組を大切にしながら、教育委員として子どもたちを見守り、支えていきたいと考えております。</p>

佐藤教育長	<p>そういった意味でも、私は部活動の地域展開に大きな期待を寄せています。これまでは、「あの先生に教わったから頑張れた」「あの先生のおかげで勝てた」といったように、生徒と教員との結び付きが中心でした。一方で、地域とのつながりがやや薄れていくようにも感じていました。今後、地域の方々が指導に関わるようになれば、生徒たちが「地域の人たちに育ててもらっている」という意識を持つようになり、部活動を通じて地域との結び付きがより強くなるのではないかと思います。市役所職員をはじめ、地域全体で子どもたちを育てるという意識が広がれば、子どもたちの幸福度はさらに高まり、将来地域に戻ってくる子どもたちも増えていくのではないかと期待しています。今後もPTAをはじめ様々な機会を通じて、そうした考えを共有していきたいと思います。</p>
津谷市長	<p>大谷翔平選手は、子どもの頃から自ら将来の目標を定め、その実現のために何をすべきかを考えながら努力を積み重ねてきたことで知られています。そうした姿は、テレビや報道を通じてスポーツに取り組む子どもたちにも大きな影響を与えていると思います。クラブ活動や地域スポーツにおいても、周囲から言われるのではなく、自分で目標を持ち、その達成のために主体的に取り組む姿勢が大切です。子どもたちがそのような意識を持つことで、指導者も責任を持って関わろうという気持ちになり、地域全体で子どもたちを育てていこうという機運につながるのではないかと思います。その意味で、大谷翔平選手は競技面だけでなく、人としての在り方も含めて、教育の面でも大きな影響を与えている存在だと感じています。こうした模範となる人物に憧れ、自ら考えて行動できる子どもたちが育つことで、地域クラブ活動もより充実したものになっていくのではないかと思います。</p> <p>それでは、意見交換はここまでとさせていただきます。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>本日の案件が全て終了しましたので、進行を事務局にお返しします。</p>
福嶋教育次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、「その他」でございますが、なにかございますか。</p> <p>ないようであれば、以上をもちまして、令和8年度第1回北秋田市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>

(午後3時10分 閉会)